

## 【I テモテへの手紙 3章】

「教会は、真理の柱また土台です。」(3:15)



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:D大重 勝裕

# SHILOAM

【シロアム：遣わされた者】

2013.2.10 No.723

今年のみ言葉

天よ。耳を傾けよ。私は語ろう。  
地よ。聞け。私の口のことばを。  
私のおしえは、雨のように下り、  
私のことばは、露のようにしたたる。

若草の上の小雨のように。

青草の上の夕立のように。

私が主の御名を告げ知らせるのだから、

**栄光を私たちの神に帰せよ。**

主は岩。主のみわざは完全。まことに、主の道はみな正しい。  
主は真実の神で、偽りがなく、正しい方、直ぐな方である。

申命記32：1～4



主の十字架クリスチャンセンター(TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://tlccfrh.astone-blog.jp/>

今年初めて殉教した日に西坂の丘で記念聖会が持たれました。(昨年は初めて西坂の丘で行いましたが6日でした。) マルコ8：34、35「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。」26聖人の中には3人の少年がいました。そんな少年が何故殉教できたのでしょうか？また、仇討ちは美德ともされていた時代に、武士の子であるパウロ三木は、自分を死刑に追いやった太閤秀吉を、旧友でもあった死刑執行人寺沢半三郎を、役人たちを赦し、福音を語りながら死んでゆきました。何故そんなことが出来たのでしょうか？それは、彼らは**キリストと共にある喜びを知っていた**から。また26聖人は宣教師が中心であり、彼らは日本の福音宣教のために命を捨てて行きました。彼らは**永遠の世界があることの確信と希望を持っていました**。オーストラリアの宣教師ジャッキーのフィリピンでの殉教のことが語られました。今迄の宣教もそうでしたが、これからはもっと殉教が起こってくるでしょう。それはリバイバルの門を開いてゆきます。西坂の丘での賛美、メッセージは雨にもかかわらず靴を脱いで、傘もささずに、熱く語られました。雨の中で誰ひとり立ち去る人がありませんでした。そこに台湾時代の友人も来てくださっていました。

夜の長崎平和会館での聖会では、ヨハネ12：24「まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」を通して、麦を蒔いたら死んだようになり、その上麦踏みをしませんが、実はその時に深く広く土地の奥底に根を張っている。やがて時が来て芽を出し実を結ぶ時に、その根からたっぷりの養分を吸収するために！“死”を通らなければ実を結べない。非常に励ましと慰めが与えられました。また26聖人の足跡の映像を見せてくださり、特別賛美も天国の喜びが伝わってきました。

また6日には殉教ツアーに行きました。5日の聖会は前半で6日のツアーは後半で両者が一組だと感じました。だからツアーに参加していない人も、それぞれ、殉教の道を辿って祈っている人が多かった。深く祈って準備された聖会とツアーに参加できて、もっと多くの方々に味わっていただきたいと思いました。

今日の3章の箇所は、監督(牧師)と執事(伝道師)等教会の奉仕者のあるべき姿について書いてあります。要約すると次のこととなります。高慢にならない・清い良心(キリストに真心から仕える)・全てに忠実・強い確信「誰からも後ろ指をさされる事無く、ちゃんとした結婚をしており、勤勉で、思慮深く、折り目正しい生活をして、善行に励む人であるべき。」これを見たら、誰もふさわしい人はいないかもしれませんが、自分の弱さも神様に差し出してそれをも感謝して、聖霊を求め、**イエス・キリストに似た者として造り変えられていきましょう**。26聖人も、京都・大阪から長崎への“旅”の間にもどんどん造り変えられていきました。殉教者としてふさわしく！

\* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意ください。  
教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。